

下の内容は、現時点のまちづくり構想（地域案）の抜粋版です。ご一読の上、アンケートにご回答ください

<まちの目標像>

つどい・そだち・つながりを大切にする人権尊重のまち とみあき

- ① **今の暮らしを大事にしつつ、“住みたい”と思われるまち**
●安心・安全に暮らし続けられるまち、新たにこのまちに住む人を惹きつける魅力と活力が満ちたまちへ
- ② **住民一人ひとりが協力・参加し、地域・人を育てるまち**
●住民が自主性を持ってまちの魅力づくりを考え、行動・実践するまちへ
- ③ **子どもから大人まで、みんなが交流し、支えあえるまち**
●一人ひとりの信頼関係やつながりを大切にするまち、「人権」を尊重し、多様な人々がともに支えあいながら暮らすまちへ

<まちを動かすシカケ>

シカケ1 公共施設再編を契機に「まちの核」をつくり、活性化につなげる

これからのまちを支えるために必要な機能

「交流機能」 活動・相談・見守り・支えあいなど 多世代が気軽に集える地域の居場所	「市営住宅」 安心・安全に住める、 多世代が共生する市営住宅
「民間住宅」 公共施設再編の跡地を使った 若者・子育て世帯が住める民間住宅	「学校」 地域・保護者・学校・行政等一丸で 新たにつくる特色・魅力のある学校
「読書・学習&子育て機能」 子どもと大人の信頼関係を築く、 子育て・子育て活動を支える場	「地域福祉・医療機能」 高齢者等が孤立することなく 安心して暮らし続けられる施設・場
「防災機能」 自然災害等の際に安心・安全に避難 できる経路・施設	「魅力創出機能」 訪れたいと思わせる、地場産業・歴史 資源を活かした魅力づくりの取組み
「買い物・飲食&駐車機能」 まちでの暮らしや移動を 便利で魅力的にする施設	「働く場」 身近な所で働いたり活躍できる、 生きがいを持てる場

シカケ2 「まちの核」を中心にした【コアプロジェクト】をつくる

プロジェクト1 多世代交流拠点づくりプロジェクト
市営住宅の建替えや施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の導入とあわせて、富秋中学校区の「まちの核」となる多世代と多様な人々が交流する機能を備えた複合拠点をつくる

プロジェクト2 学校・教育魅力づくりプロジェクト
現・富秋中学校の位置に施設一体型義務教育学校（小中一貫校）を導入し、魅力ある教育を実践する拠点と、子どもたちの最善の教育環境をつくることをめざす
注）施設一体型義務教育学校（小中一貫校）は、地域への個別説明や、アンケートを実施し、地域の機運の高まりが確認できた段階で、適正就学対策審議会などの手続きを進めることとなります

プロジェクト3 団地で子育てプロジェクト
市営住宅の空き住戸、空きスペースを活用して、若者・子育て世帯の呼び込みを実施する

プロジェクト4 居場所づくりプロジェクト
子ども・大人・親子・高齢者など「誰でも」来られる居場所づくりを実施する

プロジェクト5 安心・安全暮らしプロジェクト
高齢者や障がい者が安心・安全に暮らせるよう、福祉・防災の取組みを充実していく

プロジェクト6 にぎわいプロジェクト
地場産業や歴史資源、地元事業者の活力を活かし、地域のにぎわいを活性化する取組みを実施する

シカケ3 安心・安全・快適な通り・空間で、「まちの核」やまちの資源をつなぐ

●拠点となる「まちの核」と歴史・伝統あるまちの資源の周辺は、歩いて安心・安全、快適に感じられる通り・空間とし、まちの魅力を高めます。

安心・安全に通える通学路（イメージ写真）
うらおいのある散歩道（イメージ写真）
まちのみんなが集うメインストリート（イメージ写真）

■実現と発展に向けた持続可能な体制

校区単位での団体・個人の活動を基本に…

池上・幸校区の2つの校区が相談して
住民・地域団体を主役に
行政・学校・事業者等と力を合わせて

地域をみんなで支える仕組みを再構築！

構想実現に向けてまちづくりを考え抜くため、まちの代表者が集う「富秋中学校区等まちづくり検討会議」を推進母体とします

まちづくりのネットワークを「見える化」するため、まちづくりに関わる方を「(仮称)まちづくりパートナーズ」として登録します

みんなでプロジェクトを検討・実践するため、関係者（住民・事業者など）誰でも参加できる「プロジェクト委員会」をつくります

質の高い「まちの核」づくりを進めるため、行政や様々な事業者との連携をはかります

将来つくる拠点を地域自らが主体性をもって運営するため、運営組織を新たに立ち上げます



⇒各プロジェクトについては次ページ以降をご覧ください。

<6つの【コアプロジェクト】>

プロジェクト 1

中期

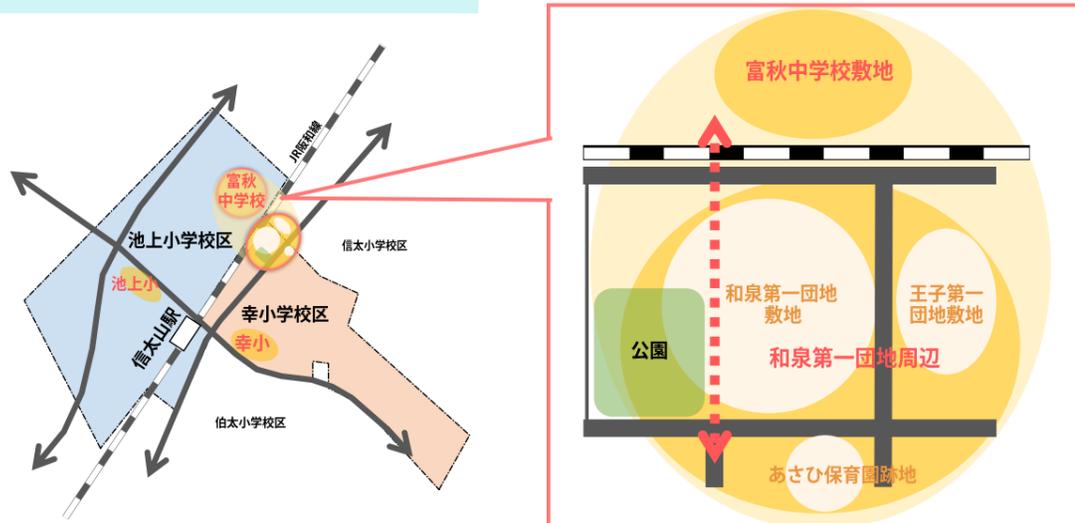
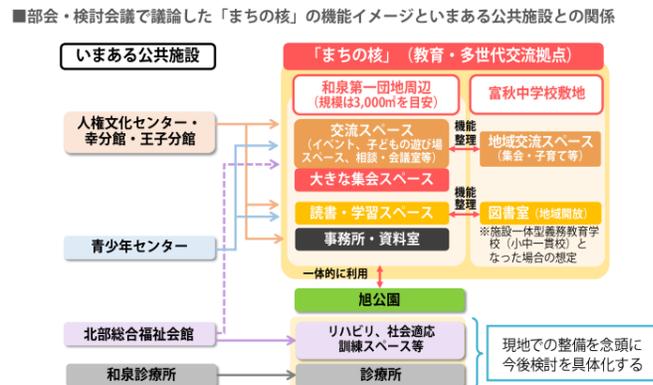
多世代交流拠点づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ①地域の中心に、誰もが集まりやすく、地域活動や相談・見守り・支えあいなどを行える、みんなの居場所となる、多世代と多様な人々が交流する拠点をつくる
- ②和泉第一団地を、耐震性に課題がある他団地とともに集約建替えし、安心・安全でコンパクトに暮らせる住まいをつくり、住まい×交流の複合拠点とする
- ③地域みんなで、多世代交流の活動内容や、使っていくルールを考え、みんなで拠点をつくり育てていく

<多世代交流拠点づくりの考え方>

- 2つの小学校区にまたがる“和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”を大きな「まちな核」とし、多世代交流拠点をつくる
- “和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”は機能連携し、必要機能は分担する
- 和泉第一団地周辺の「まちな核」は、建替用地（和泉第一・王子第一）+更地（あさひ保育園跡地）も活用する
- すぐに活用できるあさひ保育園跡地には、先行して子育て機能を誘致する
- 拠点に導入する機能や規模は、地域で話し合った「まちなに必要な機能」イメージを基に、地域と行政が対話を進めながら検討する



プロジェクト 2

中期

学校・教育魅力づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ①現・富秋中学校の位置に施設一体型義務教育学校（以下「小中一貫校」）を導入し、魅力ある学校・教育づくりを、地域・保護者・学校・行政が一丸で取り組む
- ②小中一貫校への不安・懸念事項は、「開校前」から解消に向けた取組みを行う
- ③「地域と共にある学校」をめざし、学校を多用途に活用できるスペース（集会・活動、図書室など）を設け地域拠点とする等、地域と学校の日常的な関わりあいを一層深める

<特色・魅力ある学校・教育づくりの考え方>

- 施設一体型の特性を活かした教育を実施する
- 地域特性を活かした学校独自の教育内容を充実させる
- 学校施設を多用途に活用し地域に開く（集会・活動スペース、図書室など）
- 具体的な内容等は、上記方針をもとに今後、協議の場を設け検討する



中学校教員による小学生への専科指導
 地域産業を生かしたキャリア教育
 図書室の地域開放、地域人材による読み聞かせ
 放課後子ども教室などの開催

<小中一貫校への不安・懸念事項への対応の考え方>

- 小中一貫校に対する理解を深めるような取組みを行い、地域の機運を高めていく
- 小中一貫校への不安・懸念事項は、「開校前」から、地域・保護者・学校・行政で解消するための検討を行い、取組みを実施する

主な不安・心配

- 小学生と中学生がともに過ごすことへの不安
- 通学距離・通学時の安全確保
- 教員の負担増や子どもを育む体制の弱体化

対応の考え方

- 小中一貫の教育活動を通じた交流を充実
- 小中学校教員による系統立てた指導・見守り
- 安全な通学路の整備
- 小中のたてわり活動を活用した登下校活動
- 教員をサポートする方法を検討
- 地域との連携強化（居場所づくり、コミュニティスクール等）

- 具体的な内容等は、上記の考え方をもとに今後、協議の場を設け検討する

プロジェクト 3

短期

団地で子育てプロジェクト

<取組み方針>

- ①若者・子育て世帯を呼込むための**空き家改修、ルールの変更**を行う
- ②**空きスペース**を活用してみんなが**交流できる拠点**をつくり、地域が中心となって**子育てサポートや多世代交流の取組み**を実践し、拠点を運営する

■プロジェクトイメージ

①市営住宅空き家改修（若者入居）



②空きスペース活用（居場所づくり）



③地域活動

（子育てサポート・多世代交流）



プロジェクト 4

短期

居場所づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ①子どもと大人、親同士が信頼関係を築けるよう、誰でも参加可能な「**居場所づくりイベント**」を継続的に実施する
- ②イベント等を通じて、子育て・子育て活動などを支援する**仲間・ネットワークづくり**、高齢者などの**生きがいの場づくり**を行う
- ③子どもが**自由に遊ぶことができる広場・公園**をつくり、プレーパークなどの子どもが集まるしかけづくりを行う

■まちづくり構想づくりをきっかけにスタートした第1回居場所づくりイベント

日時：平成31年 1月27日（日）

場所：青少年センター

内容：①プレーパーク&棒パンづくり&鬼ごっこ
②読み聞かせ会&読み聞かせ講座
③節分仮装づくり&記念撮影
④無料カフェスペース（セルフ）

結果：参加者 101名（大人53/子ども48）
+スタッフ約40名



プロジェクト 5

短期

安心・安全暮らしプロジェクト

<取組み方針>

- ①地域にあるさまざまな**福祉活動・防災活動の情報**と活動する人材を**連携させるネットワーク**をつくり、**活動の連携や人的交流・育成**を行う
- ②地域でさまざまな福祉活動・防災活動が行われていることを知ることができるよう、地域の**福祉活動・防災活動に関する情報を集約してまとめて発信**する
- ③子どもや若者・子育て世帯などが、**普段から助けあい・支えあいの輪に参加**できるよう、**高齢者や障がい者と日常的に接する機会**を増やすしかけづくりを行う
- ④**市営住宅を活用**し、**高齢者や障がい者が安心・安全に暮らせる住まい・拠点**をつくる

■「協議の場」*において今後の福祉活動の優先順位として挙げられた取組み

<池上校区>		<幸校区>	
1	協議の場	1	協議の場
2	カフェサロン（地域交流の場）	2	防災対策
3	見守り事業（配食・訪問）	3	見守り事業（配食・訪問）
4	防災対策	4	ふれあいモーニング（地域交流の場）
5	いきいきサロン（体操・清掃活動等）	5	社協・ボランティア活動のPR
6	空き家対策	6	敬老イベント（地域交流の場）
7	小学生福祉講座（車いす疑似体験等）	7	認知症サポーター養成講座
8	エプロン・Tシャツ作成（支援者に配布）	8	カラオケ介護の支援
9	認知症サポーター養成講座	9	いきいきサロン（地域交流の場）

*地域の福祉活動のありかたを議論する場。和泉市内の各小学校区ごとに「協議の場」が設置されている。

プロジェクト 6

短期/中期

にぎわいづくりプロジェクト

<取組み方針>

- ①**地元商業者等が連携**し、来街する外国人宿泊客の購買・文化体験機会をつくる
- ②地場産業のガラス細工・人造真珠、池上曾根史跡公園などの歴史資源を活用した**観光魅力創出プロジェクト**を実施し、**地域ブランド**をつくる
- ③地域の歴史を学ぶ場づくりや、**伝統を次世代に継ぐ者を育成**する取組みを行う
- ④住民主体で**地域の魅力・情報を発信する仕組み**をつくる

■商店主等との連携による購買・文化体験機会づくりのプロジェクトイメージ

- ・外国人観光客への「**日本人の日常体験**」（アクティビティ）の提供と「**地域の活性化**」のため、「ホテル」と「商店街」が提携
- ・**地域全体を“大きなホテル”**に見立て、宿泊客は日本人が日常利用する**飲食店**での**飲食や文化体験を楽しむ**

